

「アブラハムの召命」

2025.3.26
聖書に学ぶ7
創世記 12:1~9
使徒の働き 7:2~5

入学、就職、結婚などの人生の大きな転機を迎えて、自分の生まれ故郷を後にする人は少なくありません。ところが、ここに、そういう人生の転機を迎えてというわけでもなく、自分の生まれ故郷を離れていった人がいます。その人にとって、結果として信仰と人生の大きな転機になりました。今日はその人の始めの話です。

今日の学びの要点

- ・ 神様に声をかけて頂いて、素直に信じて従ったアブラムを神様は喜ばれ、「義」とされました。私たちがイエス・キリストによって「神の義」とされることを深く信じ従いましょう。

—ノアの子孫たちは全地に広がり、人口は増え、人々が集まっているところに町が出来ていきました—

I、父テラとアブラム

- 1、神様はメソポタミヤのカルデアのウルに住む、アブラムにどのように声をかけられましたか。（創世記 12:1,使徒 7:2）
- 2、アブラムは父テラと家族と共に、神様の示される地に向かって、出発しました。（創世記 12:1）
 - ①アブラムは故郷を離れたのですが、その場所がどこにあるのか、地域性がどうなのか何も知らなかったと思われます。
 - ②アブラムと一緒に故郷を離れたのはどういう人たちでしたか。どんな気持ちで故郷を後にしたのでしょうか。
 - ③ハランまで来たとき、父テラはそこに住みついてしまいました。（創世記 11:31）どのようなことが想像できますか。

Ⅱ、神様のみこころに従う

1、父テラの死後、カルデアのウルに戻る事もできましたが、神様はアブラムに何をしなさいと言われましたか。（創世記 12:1,使徒 7:2）

- ・生まれ故郷
- ・父の家を出る

2、神様の示す地に行くならどうすると言われましたか。

①大いなる国民にする --アブラムには子どもがなかった（創世記 11:30）

--その地には先住民がいて、その場所もアブラムのものではない

②祝福されるアブラムを

祝福する者は、神に祝福される
呪う者は、神の呪われる

③地上の全ての民族もアブラムによって祝福される（創世記 12:3）

3、この約束は、私たちに与えられた福音ともいえるものです。それはどういうことでしょうか。

①アブラムは素直に、神様の約束を信じて、歩みだしました。

それを「神様は義と認められた」（創世記 15:6）

②ガラテヤ 3:5～14 を読みましょう。

同じ信仰を持つ者は、アブラムと共に祝福を受けることができます。